

# 労働災害の現状

令和6年 労働災害発生状況の分析



上田労働基準監督署

# 目次

## 労働災害の推移・全産業傾向

全体的傾向	p.2
業種別傾向	p.2
事故の型別傾向	p.3
起因物別傾向	p.3
事業場規模別傾向	p.3
死傷者の年齢別傾向	p.4
死傷者の経験年数別傾向	p.4
災害発生月別傾向	p.4
災害発生時間帯別傾向	p.4
その他	p.4

労働災害の推移・全産業傾向 表	p.5
-----------------	-----

労働災害の推移・全産業傾向 グラフ	p.9
-------------------	-----

## 労働災害の推移・産業別傾向

製造業の労働災害発生状況	p.13
建設業の労働災害発生状況	p.16
運輸貨物業の労働災害発生状況	p.19

【付録】労働安全衛生情報リンク集(2次元コード)	p.22
--------------------------	------

【付録】冬季の転倒災害について	p.23
-----------------	------

### 注記

本書のグラフ・表について特別のことわり書きのないものはすべて、令和6年1月1日から令和6年12月31日に上田労働基準監督署管内(上田市・東御市・小県郡全域)で発生した、休業4日以上(令和7年1月末確定値)の労働災害(新型コロナウイルス感染症のり患による労働災害を除く)の統計数値を表します。

# 労働災害の推移・全産業傾向

## 全体的傾向

- 休業4日以上之死傷者数は246人で、前年よりも2.9%増加し、過去10年間で最も多くなった。また、当署における14次防の令和6年目標値の198人を大きく上回り、目標を達成できなかった。
- 死亡災害は発生しなかった(令和5年(以下、「前年」という。)の死亡者数は2人)。

## 業種別傾向

- 製造業
  - 製造業の死傷者数は64人で、前年に比べ8人(11.1%)減少した。
  - 死亡災害は発生しなかった。
  - 中分類別に見ると、「木材・木製品製造業」及び「輸送用機械等製造業」が前年比で2人以上増加しており、特に「木材・木製品製造業」は前年比3人と大幅に増加した。
- 建設業
  - 建設業の死傷者数は20人で、前年に比べ1人(5.3%)増加した。
  - 死亡災害は発生しなかった。
  - 中分類別に見ると、「土木工事業」の死傷者数は、前年に比べ2人増加した。「建築工事業」の死傷者数は、前年に比べ2人減少した。「設備工事業」は前年に比べ1人増加した。
- 運輸貨物業
  - 運輸貨物業の死傷者数は31人で、前年に比べ10人(47.6%)増加した。
  - 死亡災害は発生しなかった。
- 林業
  - 林業の死傷者数は6人で、前年に比べ2人(50.0%)増加した。
  - 死亡災害は発生しなかった。
- その他の事業
  - その他の事業の死傷者数は125人で、前年に比べ2人(1.6%)増加した。
  - 死亡災害は発生しなかった。
  - 業種別に見ると、「卸売業・小売業」、「保健衛生業」、「飲食店」及び「ゴルフ場」の死傷者数が増加した一方、「清掃業」及び「ビルメンテナンス業」の死傷者数は減少した。

### 事故の型<sup>\*1</sup>別傾向

- 「転倒」が 71 人(構成比 28.9%)と依然として最も多く、次いで「無理な動作」が 42 人(同 17.1%)、「はさまれ・巻き込まれ」が 32 人(同 13.0%)となった。
- 「転倒」、「激突され」、「はさまれ・巻き込まれ」、「切れ・こすれ」、「感電」、「交通事故」及び「動作の反動・無理な動作」については前年より死傷者数が増加しており、特に「激突され」は前年に比べ7人と大幅に増加した。

### 起因物<sup>\*2</sup>別傾向

- 「仮設物、建築物、構築物等(足場・通路・階段・屋根等をいう)」は 55 人(構成比 22.4%)で、前年に比べ 16 人減少したが、依然として最も多くを占めている。次いで「その他の装置等」が 44 人(同 17.9%)、「動力機械」が 37 人(同 15.0%)となった。
- 「動力機械」及び「環境等」については、前年より死傷者数が増加した。

### 事業場規模別傾向

- 事業場の規模別に見ると、規模 10 人以上 30 人未満が 66 人(構成比 26.8%)で最も多く、次いで 10 人未満が 44 人(同 17.9%)であった。
- 規模 10 人以上 30 人未満は前年に比べ2人増加している。
- 小規模事業場(規模 30 人未満)は 110 人(構成比 44.7%)で、全体の約4割を占めている。

\*1 事故の型...傷病を受けるもととなった起因物が関係した現象をいう。

\*2 起因物...災害をもたらすもととなった機械、装置もしくはその他の物または環境等をいう。

#### 死傷者の年齢別傾向

- 死傷災害を年齢別で見ると、60歳以上が74人(構成比30.1%)で最も多く、次いで50歳代が50人(同20.3%)となった。
- 令和3年以降、4年連続で、50歳以上の死傷者が全体の半数以上を占めており、中高年齢者の労働災害が多発している。

#### 死傷者の経験年数別傾向

- 死傷災害を経験年数別で見ると、10年以上の熟練労働者が72人(構成比29.3%)で最も多く、次いで5年以上10年未満の労働者が51人(同20.7%)、3年以上5年未満の労働者が32人(同13.0%)となった。
- 経験年数1年未満の未熟練労働者は61人(同24.8%)であった。

#### 災害発生日別傾向

- 1月と4月がそれぞれ26人(構成比10.6%)で最も多かった。次いで2月が25人(同10.2%)、7月が24人(同9.8%)となった。

#### 災害発生時間帯別傾向

- 9時台が32人(構成比13.0%)で最も多かった。次いで15時台が28人(同11.4%)、10時台と11時台がそれぞれ20人(同8.1%)の順となった。
- 過去5年間で見ると、9時台～11時台に労働災害が多発する傾向がある。

#### その他

- 派遣先における派遣労働者の死傷者数は10人で、前年に比べ3人増加した。
- 外国人労働者の死傷者数は7人で、前年に比べ12人減少した。

# 労働災害の推移・全産業傾向 表

表1 労働災害死傷者数の推移

グラフ1

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	前年比較
死亡者数	1	0	1	2	0	2
死傷者数（死亡者除く）	200	202	201	237	246	9
合計	201	202	202	239	246	7

表2 業種別労働災害死傷者数（より詳細な区分については次ページを参照）

グラフ2

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	前年比較
製造業	49	37	56	72	64	8
建設業	24	24	23	19	20	1
運輸貨物業	26	31	24	(1)	21	31
林業	(1)	5	1	3	4	6
商業	36	33	32	41	53	12
保健衛生業	20	30	21	28	32	4
接客娯楽業	9	14	18	13	15	2
その他の業種	32	32	(1)	25	(1)	41
						25
						16

表3 事故の型別死傷者数

グラフ3

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	前年比較
墜落・転落	(1)	38	28	26	31	27
転倒	63	71	62	70	71	1
激突	6	8	11	13	13	0
飛来・落下	10	8	11	12	9	3
崩壊・倒壊	4	7	3	3	1	2
激突され	12	6	3	(1)	5	12
はさまれ・巻き込まれ	21	21	20	29	32	3
切れ・こすれ	13	13	17	11	14	3
感電	0	0	0	0	1	1
交通事故	9	8	7	(1)	11	13
動作の反動・無理な動作	17	22	31	39	42	3
その他（上記以外）	8	10	11	15	11	4

表4 起因物別死傷者数

グラフ4

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	前年比較
動力機械	(1)	29	15	26	18	37
運搬機械等	27	30	25	(1)	32	31
その他の装置等	51	28	20	49	44	5
仮設物、建築物、構築物等	46	74	60	71	55	16
物質、材料	9	10	(1)	9	22	16
荷	9	9	5	17	14	3
環境等	13	8	22	9	19	10
その他（上記以外）	17	28	35	(1)	21	30

(注) 1.本統計は、「労働者死傷病報告」により、休業4日以上災害を集計したものである（新型コロナウイルス感染症のり患による労働災害を除く）。

2. ( ) 書きは死亡者数で、死傷者数の内数である。

3.単位：人

表 2 - 2 業種別労働災害死傷者数

		令和 2 年	令和 3 年	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	前年比較
製造業	食 料 品 製 造 業	14	10	14	18	15	3
	織 維 ・ 織 維 製 品 製 造 業	0	0	0	1	0	1
	木 材 ・ 木 製 品 製 造 業	1	0	4	1	4	3
	パ ル プ ・ 紙 ・ 紙 加 工 品 ・ 印 刷 製 本 業	1	0	1	0	0	0
	化 学 工 業	5	5	3	9	4	5
	窯 業 ・ 土 石 製 品 製 造 業	0	1	4	0	1	1
	鉄 鋼 ・ 非 鉄 金 属 製 造 業	2	2	4	4	5	1
	金 属 製 品 製 造 業	9	5	16	13	9	4
	一 般 機 械 器 具 製 造 業	6	4	2	4	5	1
	電 気 機 械 器 具 製 造 業	2	5	4	11	6	5
	輸 送 用 機 械 等 製 造 業	5	3	3	9	11	2
	電 気 ・ ガ ス ・ 水 道 業	0	0	0	0	1	1
	そ の 他 の 製 造 業	4	2	1	2	3	1
小 計	49	37	56	72	64	8	
鉱 業	0	0	0	0	0	0	
建設業	土 木 工 事 業	8	10	7	4	6	2
	建 築 工 事 業	10	10	11	11	9	2
	そ の 他 の 建 設 業	6	4	5	4	5	1
	小 計	24	24	23	19	20	1
運輸貨物業	道 路 貨 物 運 送 業	19	28	24	(1) 20	27	7
	そ の 他 の 運 輸 交 通 業	7	3	0	1	4	3
	陸 上 貨 物 取 扱 業	0	0	0	0	0	0
	小 計	26	31	24	(1) 21	31	10
林 業	(1) 5	1	3	4	6	2	
その他の事業	卸 売 業 又 は 小 売 業	36	28	28	36	47	11
	医 療 保 健 業 等	2	9	7	7	4	3
	社 会 福 祉 施 設	18	21	14	21	28	7
	旅 館 業	4	7	6	4	4	0
	飲 食 店	4	5	9	8	9	1
	ピ ル メ ン テ ナ ン ス 業	7	7	6	5	3	2
	警 備 業	2	4	1	1	2	1
	上 記 以 外 の 業 種	24	28	(1) 25	(1) 41	28	13
小 計	97	109	(1) 96	(1) 123	125	2	
合 計	(1) 201	202	(1) 202	(2) 239	246	7	

(注) 1.本統計は、「労働者死傷病報告」により、休業4日以上の災害を集計したものである(新型コロナウイルス感染症のり患による労働災害を除く)。

2.( )書きは死亡者数で、死傷者数の内数である。

3.単位：人

表5 事業場規模別死傷者数

グラフ5

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
10人未満	(1) 47	30	32	37	44
10人以上30人未満	57	45	60	(2) 64	66
30人以上50人未満	32	34	(1) 27	36	38
50人以上100人未満	20	29	36	38	43
100人以上300人未満	35	44	30	48	41
300人以上	10	20	17	16	14

各年で死傷者数が最多のものは赤色で示し、次いで多いものは黄色で示している。

表6 年齢別死傷者数

グラフ6

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
19歳以下	4	2	1	8	3
20歳代	24	30	31	34	38
30歳代	29	25	23	23	39
40歳代	46	37	(1) 43	34	42
50歳代	47	56	52	(2) 65	50
60歳以上	(1) 51	52	52	75	74

各年で死傷者数が最多のものは赤色で示し、次いで多いものは黄色で示している。

表7 経験年数別死傷者数

グラフ7

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
3か月未満	10	24	21	10	17
3か月以上半年未満	16	14	10	11	17
半年以上1年未満	14	8	12	(1) 25	27
1年以上3年未満	33	28	29	43	30
3年以上5年未満	19	20	29	29	32
5年以上10年未満	43	38	36	48	51
10年以上	(1) 66	70	(1) 65	(1) 73	72

表8 災害発生月別死傷者数

グラフ8

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
1月	13	14	19	(1) 30	26
2月	18	17	23	29	25
3月	15	11	20	15	14
4月	23	20	21	12	26
5月	7	15	15	(1) 21	22
6月	24	20	(1) 15	21	21
7月	18	19	12	19	24
8月	14	18	17	21	18
9月	15	19	13	23	17
10月	15	19	11	22	19
11月	(1) 20	12	14	14	19
12月	19	18	22	12	15

各年で死傷者数が最多のものは赤色で示し、次いで多いものは黄色で示している。

(注)1.本統計は、「労働者死傷病報告」により、休業4日以上の災害を集計したものである(新型コロナウイルス感染症のり患による労働災害を除く)。

2.( )書きは死亡者数で、死傷者数の内数である。

3.単位:人



表9 災害発生時間帯別

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
0時台	0	0	1	0	1
1時台	1	1	0	2	2
2時台	2	1	4	1	2
3時台	0	1	1	2	4
4時台	3	3	1	3	6
5時台	0	2	2	(1)	4
6時台	4	6	7	7	7
7時台	5	4	3	5	7
8時台	5	8	8	21	18
9時台	18	22	20	23	32
10時台	(1)	20	24	22	33
11時台	26	30	20	(1)	27
12時台	16	20	11	11	9
13時台	10	10	11	16	19
14時台	27	9	17	22	17
15時台	15	14	19	19	28
16時台	16	18	12	15	16
17時台	9	8	(1)	14	6
18時台	6	3	12	5	5
19時台	4	7	4	9	6
20時台	2	2	1	3	2
21時台	4	3	4	0	3
22時台	2	3	3	2	4
23時台	6	3	5	3	2

各年で死傷者数が最多のものは赤色で示し、次いで多いものは黄色で示している。

表10 その他（労働者の分類等）

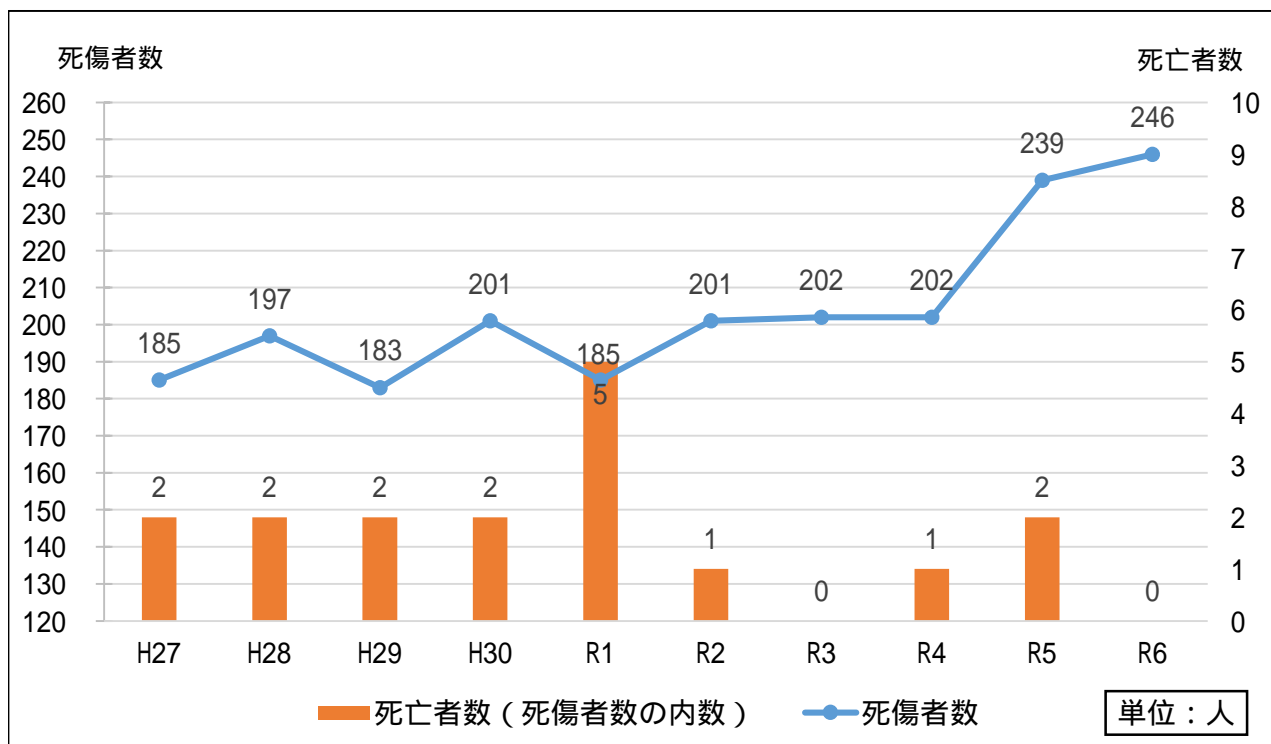
	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
派遣先	3	10	6	7	10
外国籍	7	8	10	19	7

(注)1.本統計は、「労働者死傷病報告」により、休業4日以上災害を集計したものである(新型コロナウイルス感染症のり患による労働災害を除く)。

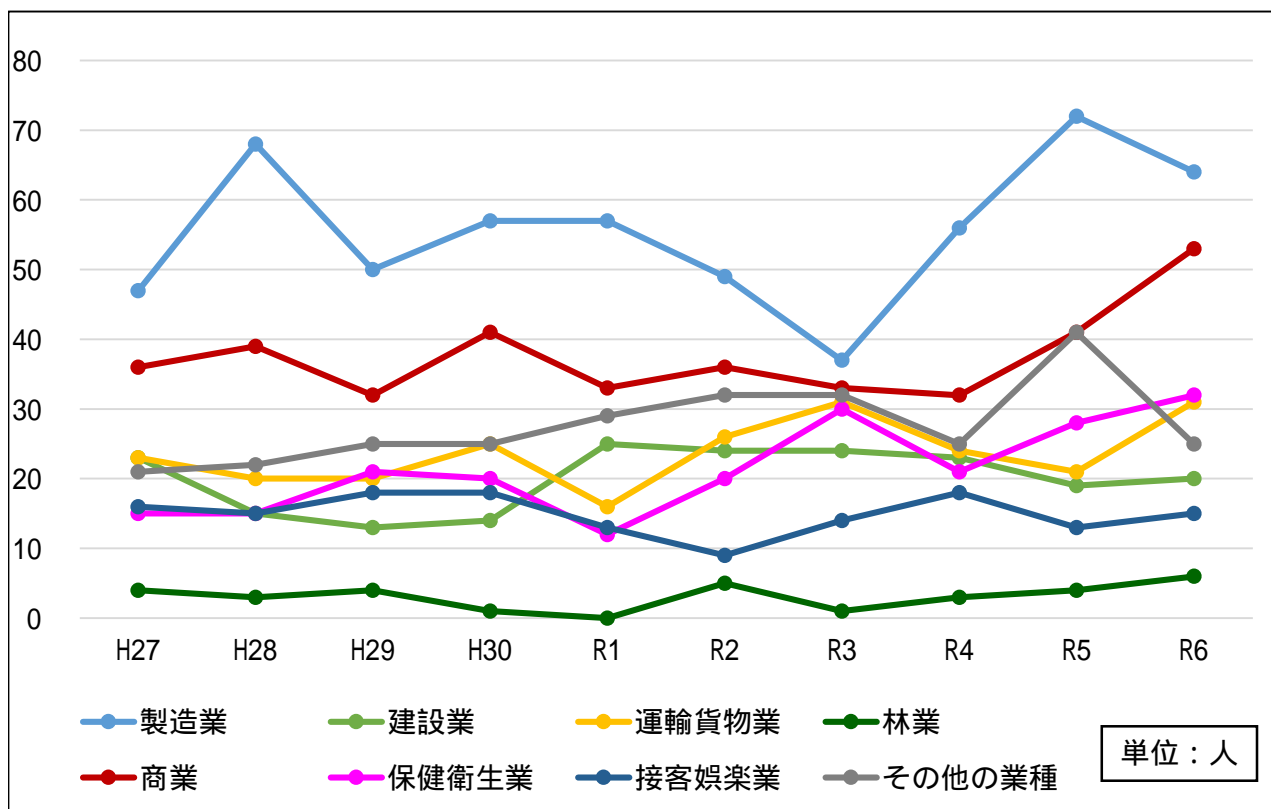
2.( )書きは死亡者数で、死傷者数の内数である。

3.単位:人

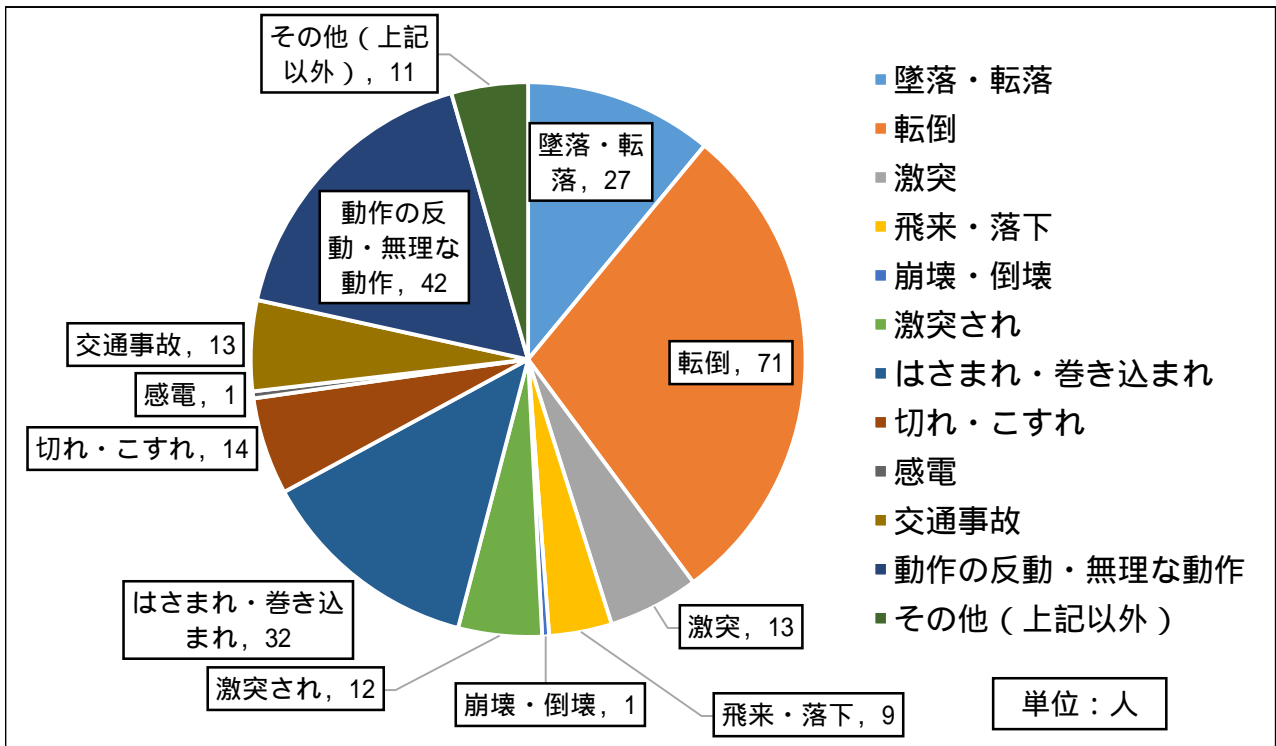
# 労働災害の推移・全産業傾向 グラフ



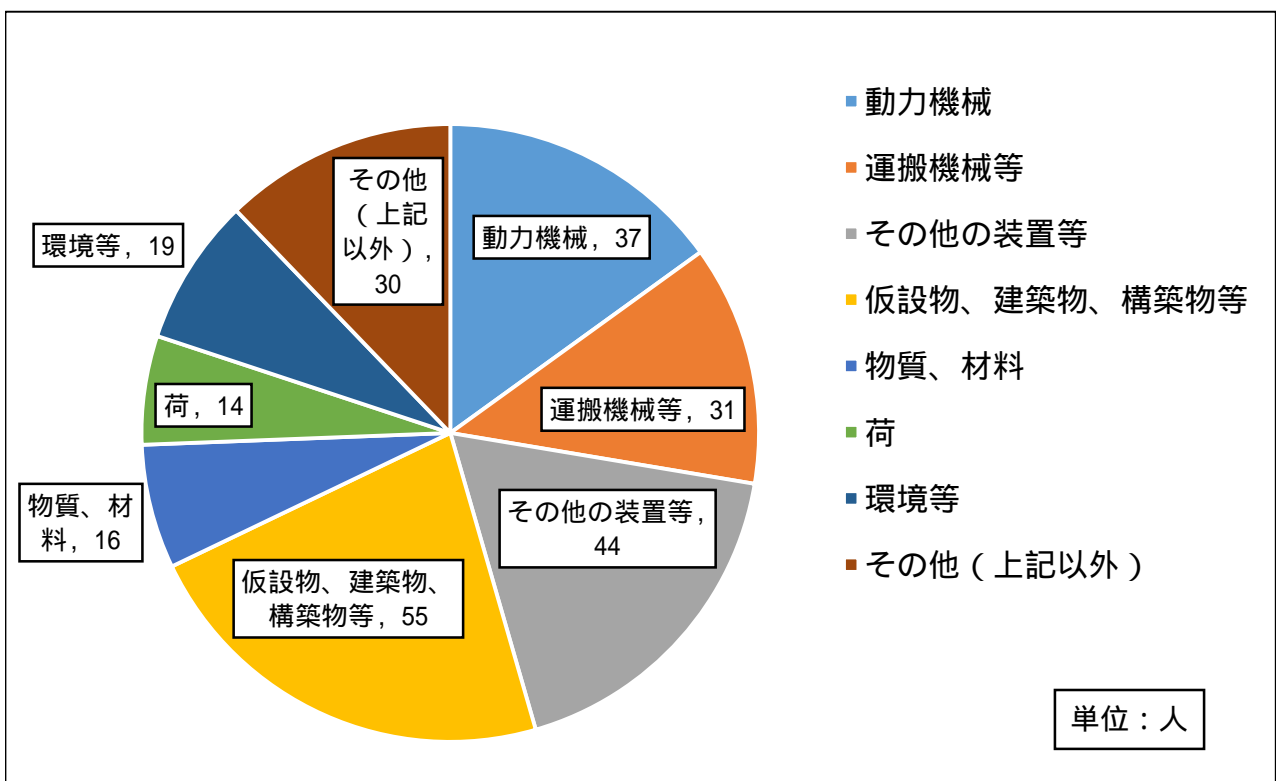
グラフ1 過去10年間の労働災害死傷者数の推移



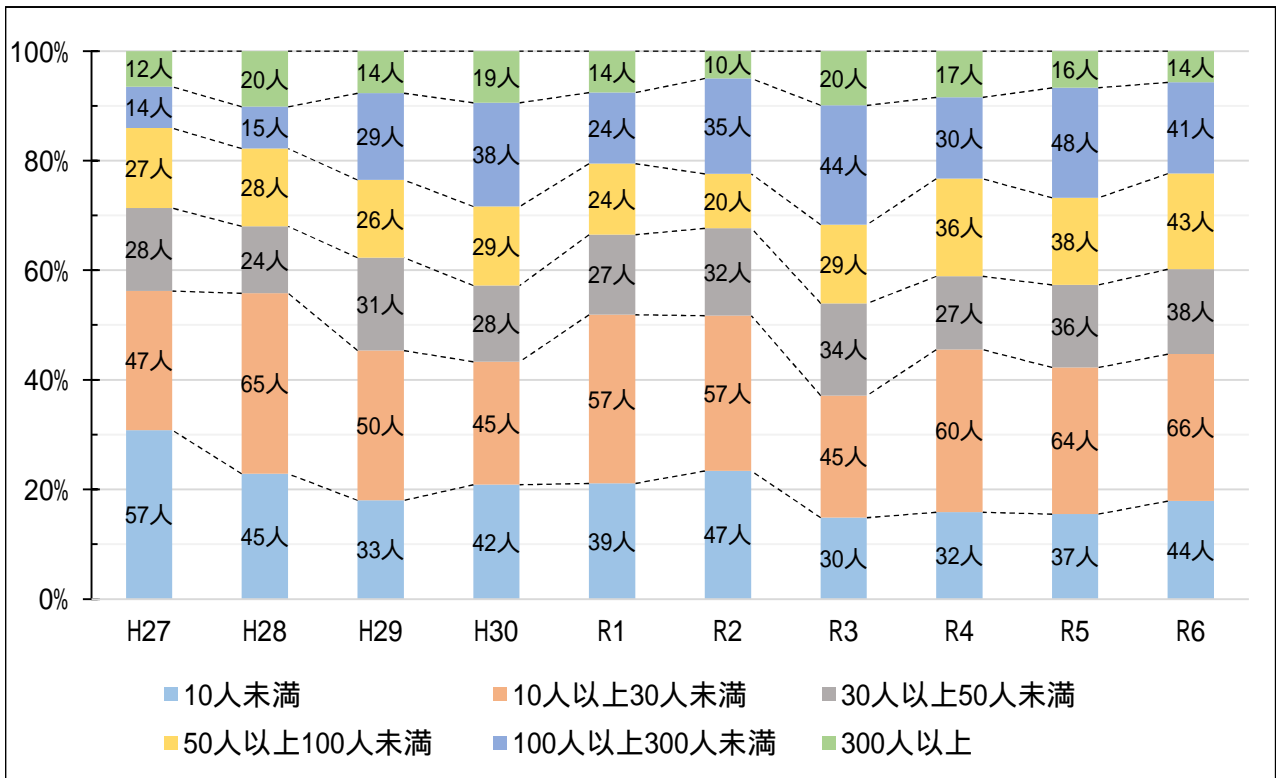
グラフ2 過去10年間の業種別労働災害死傷者数



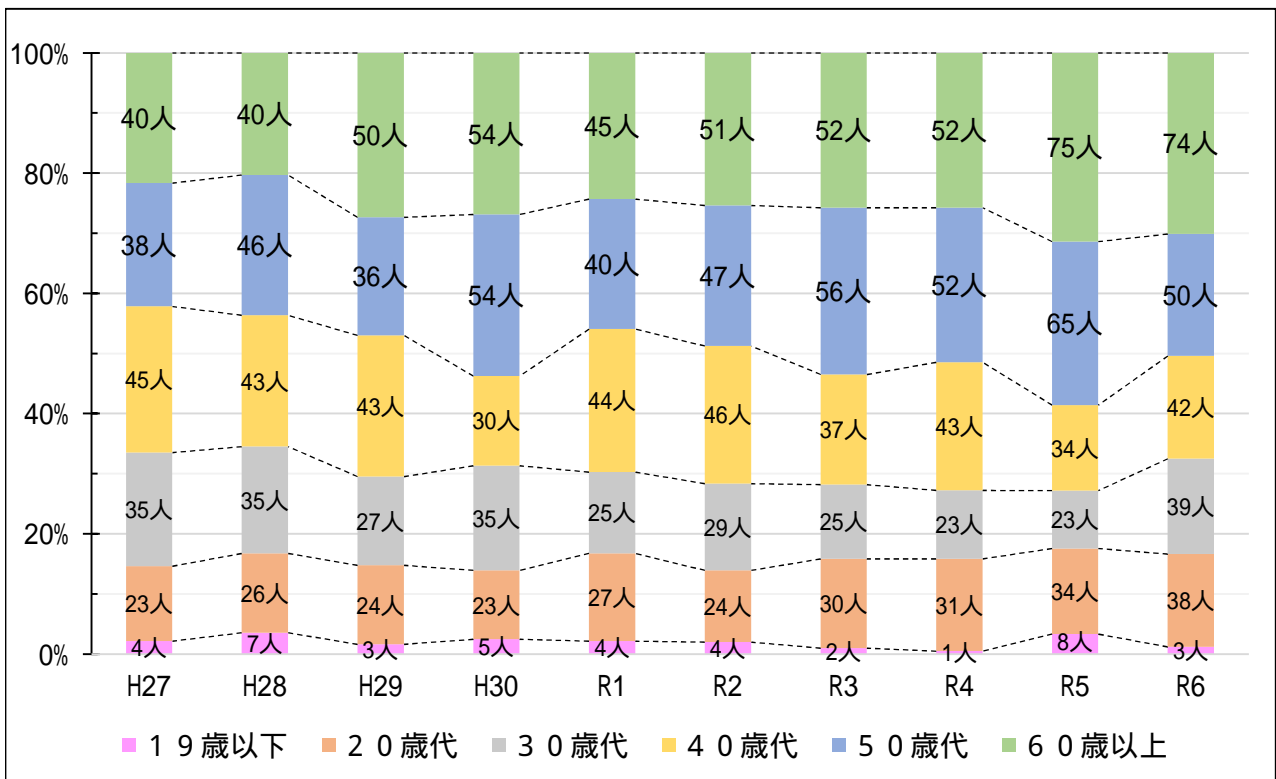
グラフ3 令和6年の事故の型別死傷者数



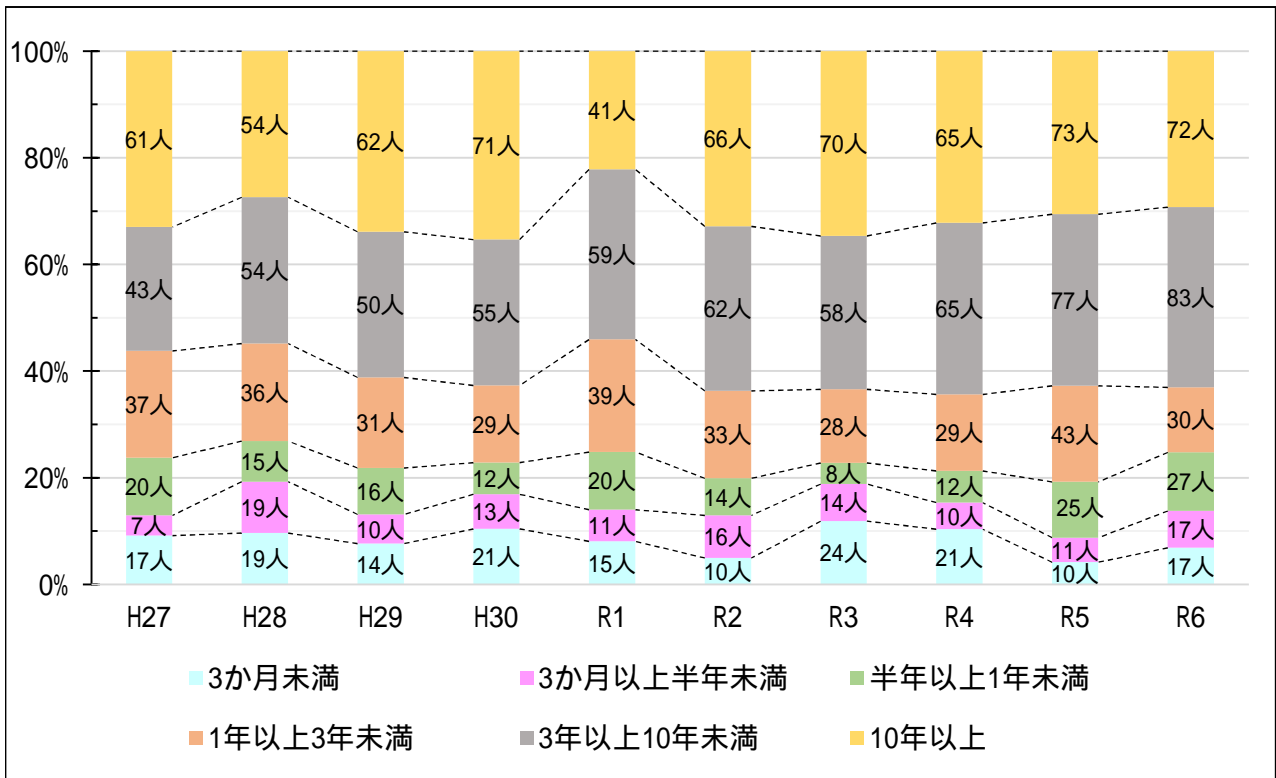
グラフ4 令和6年の起因物別死傷者数



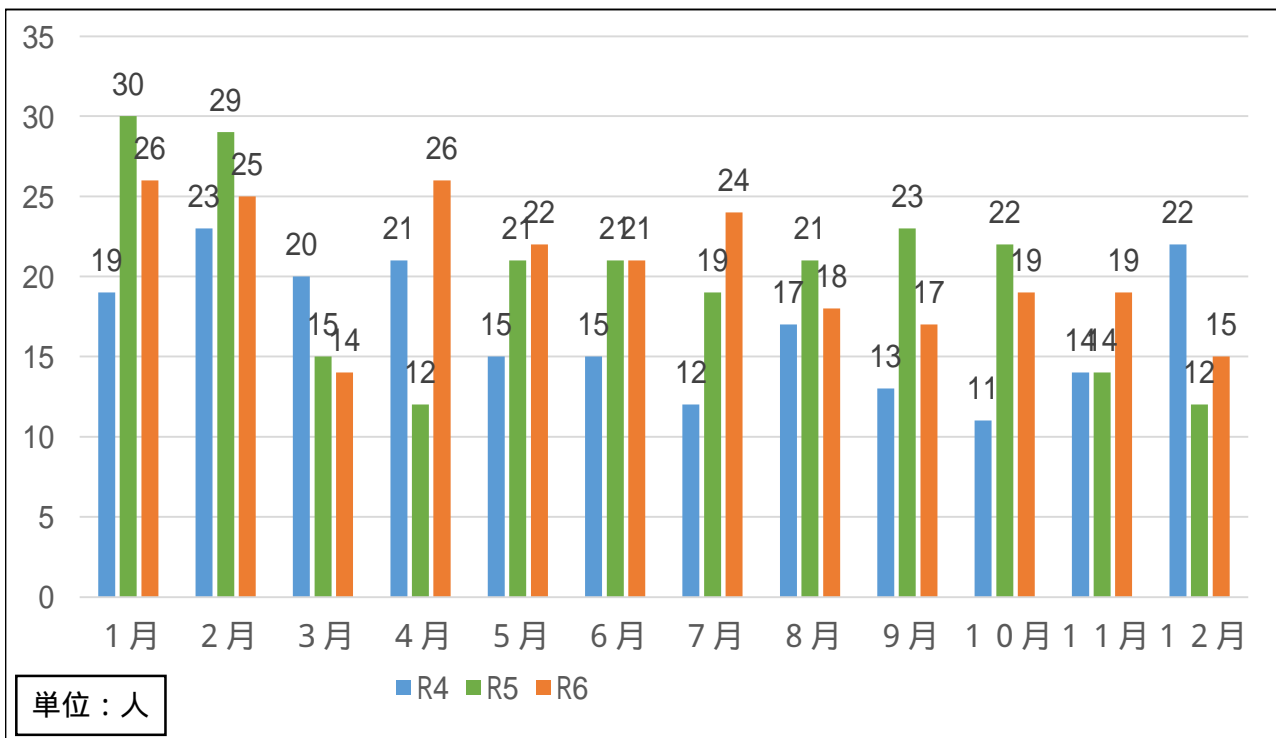
グラフ5 過去10年間の事業場規模別 死傷者数の割合の推移



グラフ6 過去10年間の年齢別 死傷者数の割合の推移



グラフ7 過去10年間の経験年数別 死傷者数の割合の推移



グラフ8 過去3年間の月別 死傷者数

## 製造業の労働災害発生状況

- ・令和6年の死亡者数は0人。過去10年間の死亡者数は1人。令和元年以降、死亡災害ゼロを継続中である。
- ・令和6年の死傷者数は64人で、前年に比べて8人減少した。
- ・事故の型別では、「はさまれ・巻き込まれ」が20人で最も多く、次いで「転倒」が10人、「切れ・こすれ」と「動作の反動・無理な動作」がそれぞれ7人となった。「はさまれ・巻き込まれ」は前年に比べて3人増加した。
- ・事業場の規模別では、規模50人以上100人未満が17人で最も多かった。
- ・経験年数別では、10年以上の労働者が前年比1人増加して21人と最も多く、熟練労働者の災害が多発している。

表11 製造業における労働災害死傷者数の推移

グラフ9

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	前年比較
死亡者数	0	0	0	0	0	0
死傷者数（死亡者除く）	49	37	56	72	64	8
合計	49	37	56	72	64	8

表12 事故の型別死傷者数

グラフ10

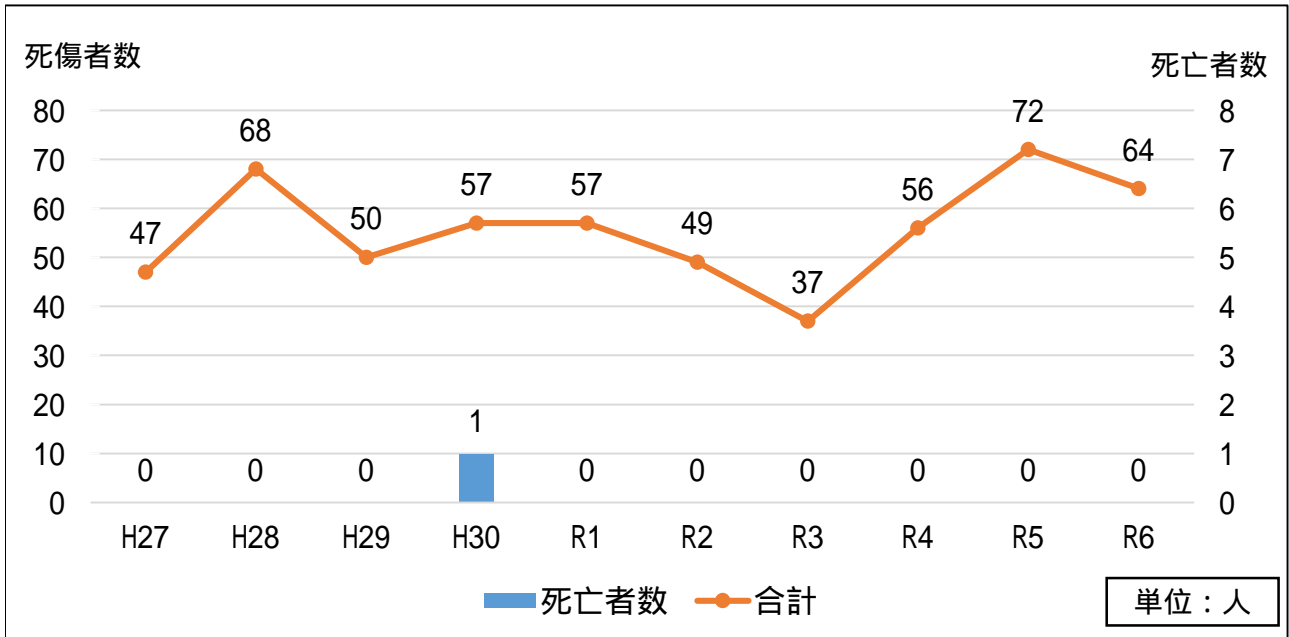
	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	前年比較
墜落・転落	9	7	3	7	5	2
転倒	7	10	15	13	10	3
激突	4	1	1	6	6	0
飛来・落下	2	3	3	3	2	1
崩壊・倒壊	0	1	0	1	1	0
激突され	6	1	1	1	1	0
はさまれ・巻き込まれ	8	7	15	17	20	3
切れ・こすれ	4	2	5	2	7	5
感電	0	0	0	0	0	0
交通事故	1	0	0	0	2	2
動作の反動・無理な動作	4	3	9	14	7	7
その他（上記以外）	4	2	4	8	3	5

（注）1.本統計は、「労働者死傷病報告」により、休業4日以上災害を集計したものである（新型コロナウイルス感染症のり患による労働災害を除く）。

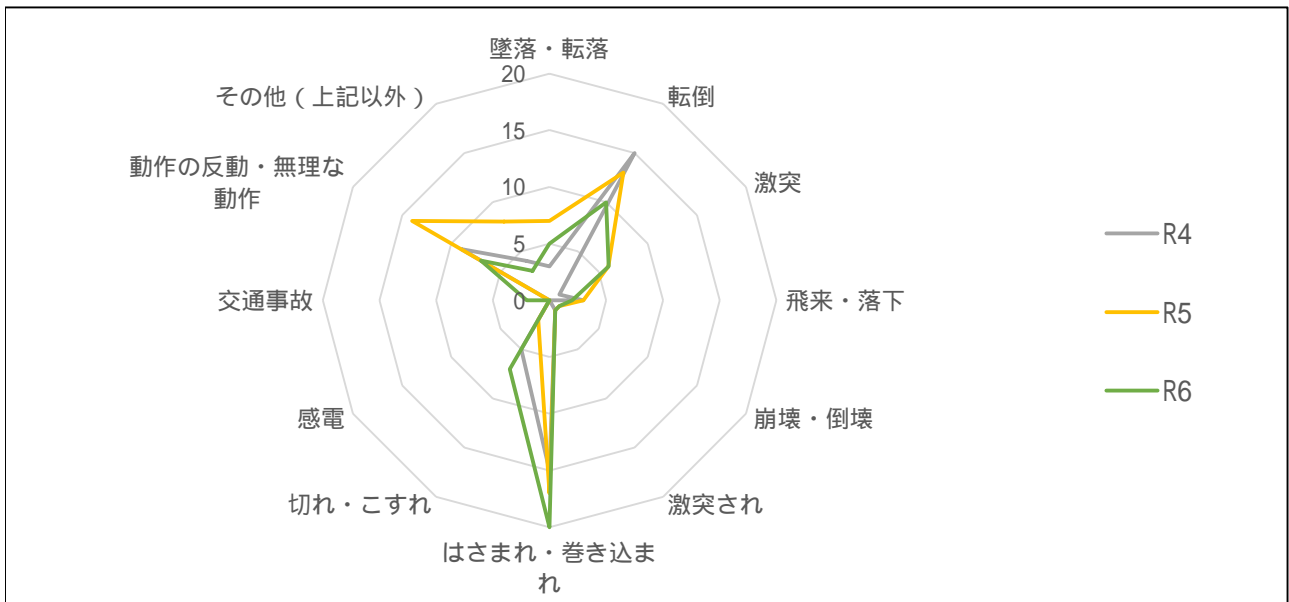
2.（ ）書きは死亡者数で、死傷者数の内数である。

3.単位：人

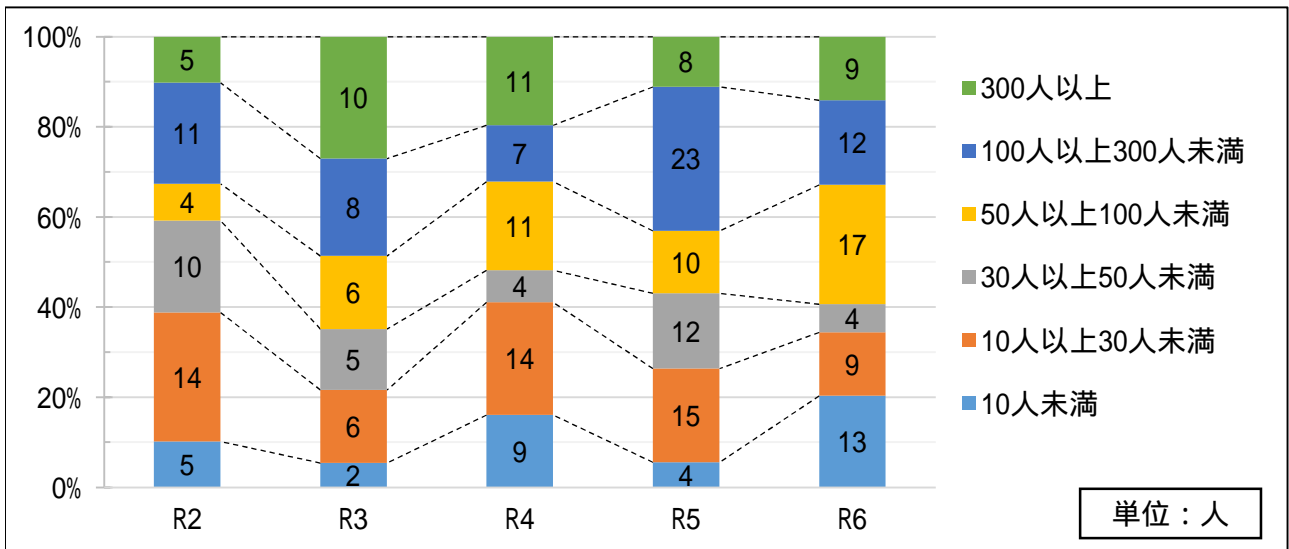
## 製造業の労働災害発生状況



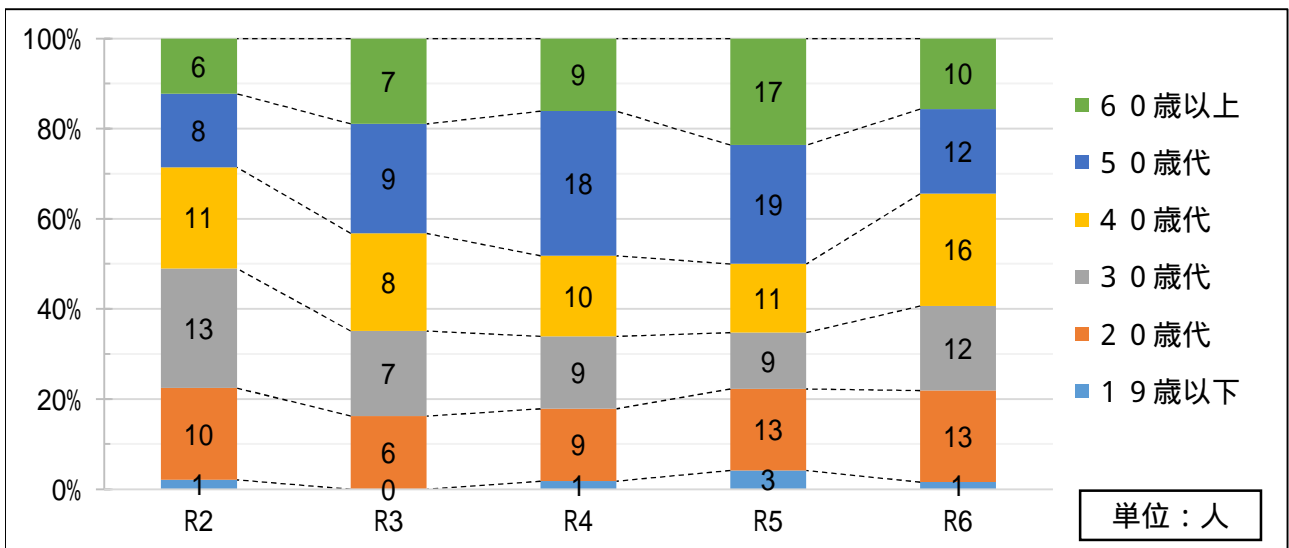
グラフ9 過去10年間の製造業における死亡者数及び死傷者数



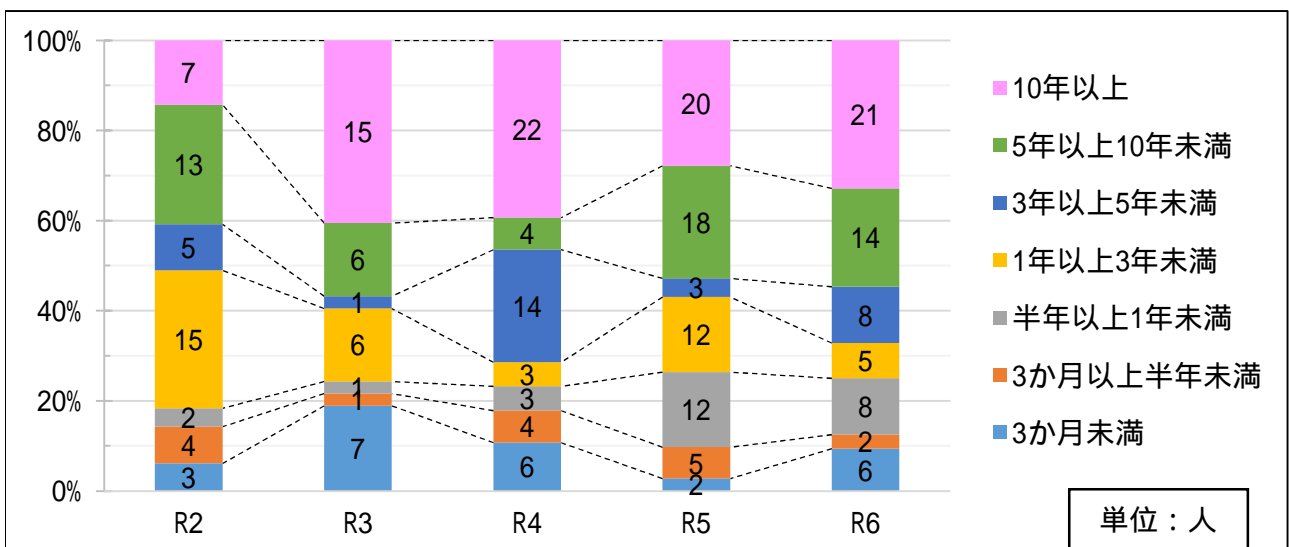
グラフ10 過去5年間の製造業における事故の型別 死傷者数



グラフ11 過去5年間の製造業における規模別 死傷者数の割合



グラフ12 過去5年間の製造業における年齢別 死傷者数の割合



グラフ13 過去5年間の製造業における経験年数別 死傷者数の割合



## 建設業の労働災害発生状況

- ・令和6年の死亡者数は0人。過去10年間の死亡者数は3人。
- ・令和6年の死傷者数は20人で前年に比べて1人増加した。
- ・事故の型別では、「墜落・転落」が6人で最も多く、次いで「はさまれ・巻き込まれ」と「交通事故」がそれぞれ3人となった。
- ・経験年数別では、10年以上の労働者が7人で最も多く、全体の35%を占めている。

表13 建設業における労働災害死傷者数の推移

グラフ14

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	前年比較
死亡者数	0	0	0	0	0	0
死傷者数（死亡者除く）	24	24	23	19	20	1
合計	24	24	23	19	20	1

表14 事故の型別死傷者数

グラフ15

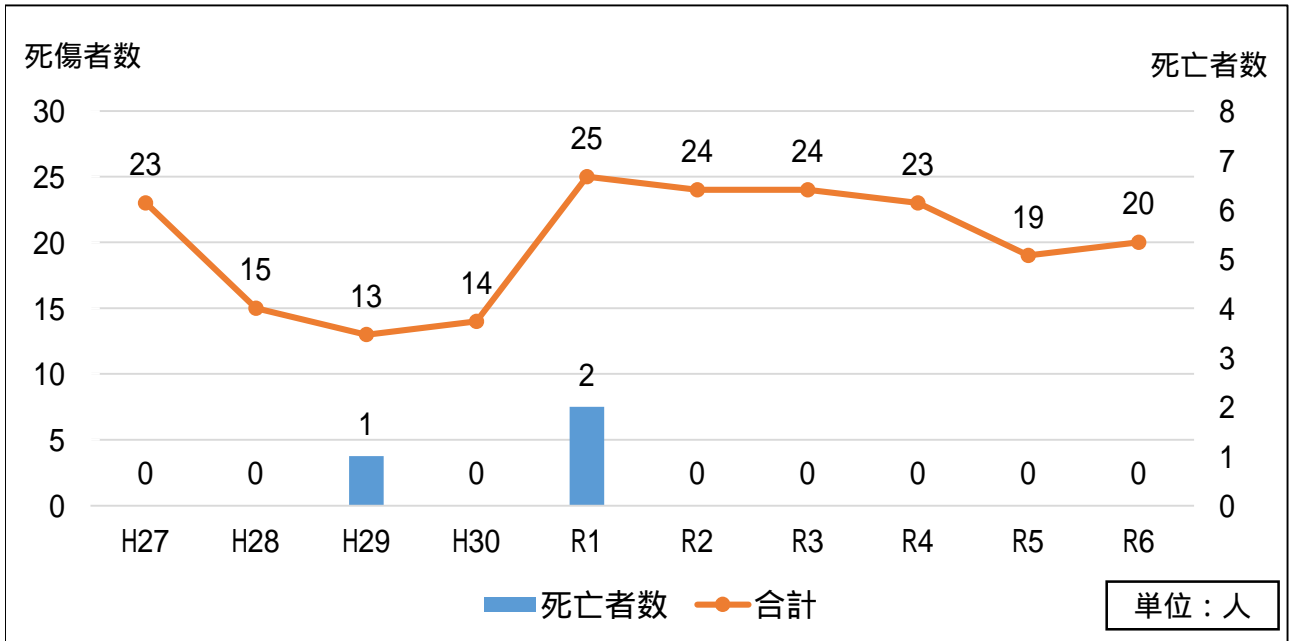
	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	前年比較
墜落・転落	12	7	5	4	6	2
転倒	2	3	3	0	2	2
激突	0	0	1	1	1	0
飛来・落下	2	2	2	3	0	3
崩壊・倒壊	1	1	0	1	0	1
激突され	1	2	1	0	2	2
はさまれ・巻き込まれ	4	2	0	4	3	1
切れ・こすれ	1	5	5	1	0	1
感電	0	0	0	0	1	1
交通事故	1	1	3	2	3	1
動作の反動・無理な動作	0	1	2	2	1	1
その他（上記以外）	0	0	1	1	1	0

（注）1.本統計は、「労働者死傷病報告」により、休業4日以上の災害を集計したものである（新型コロナウイルス感染症のり患による労働災害を除く）。

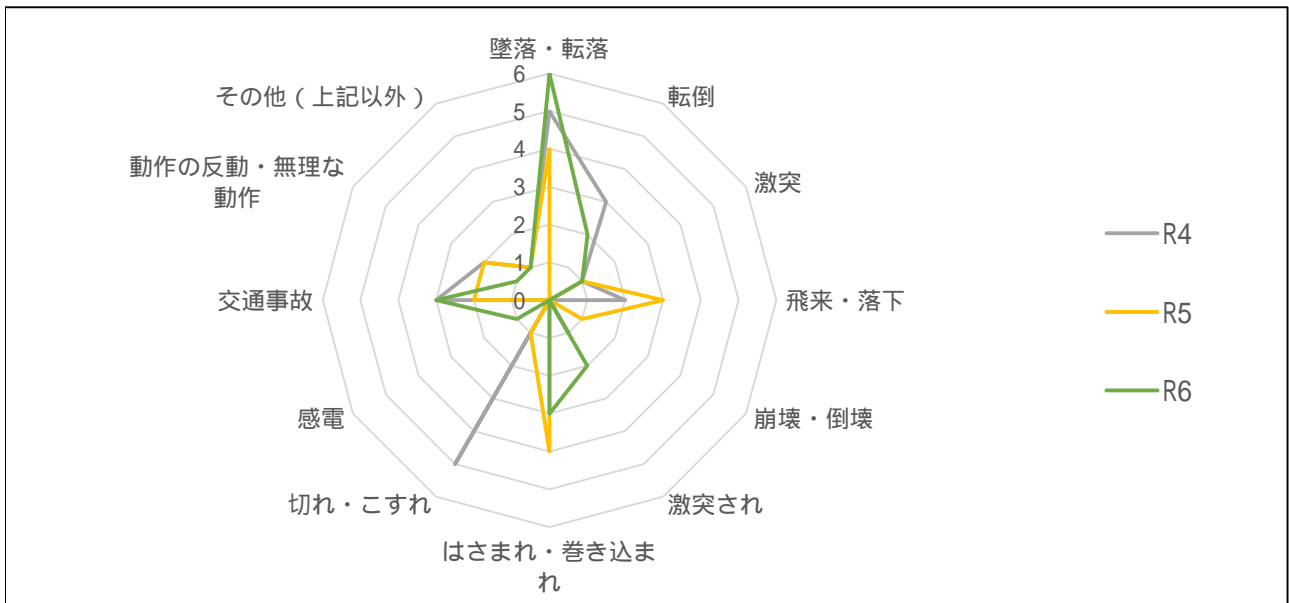
2.（）書きは死亡者数で、死傷者数の内数である。

3.単位：人

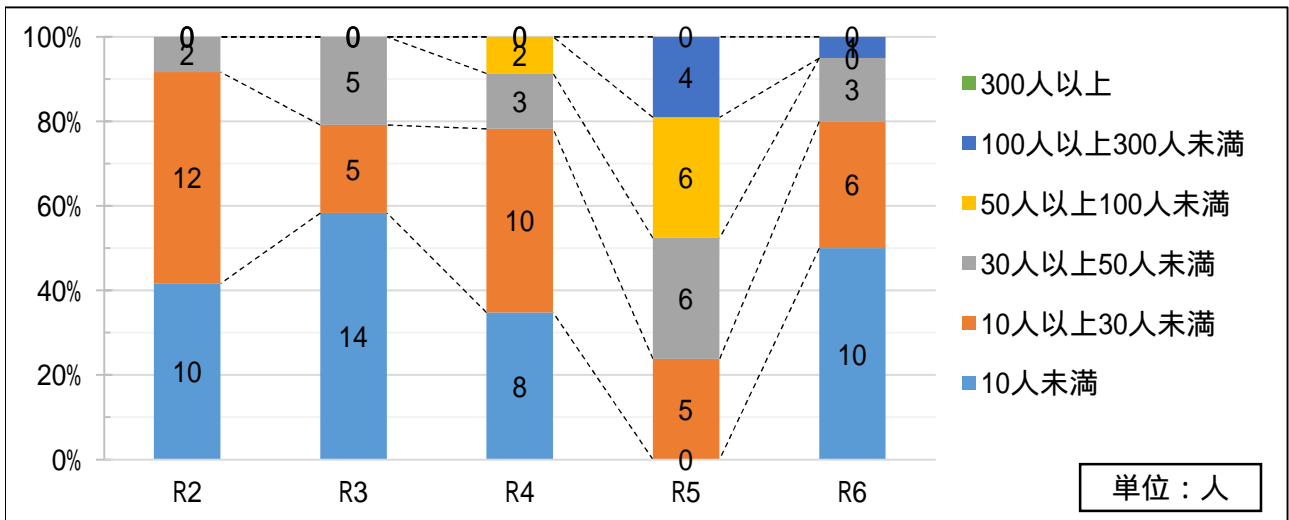
## 建設業の労働災害発生状況



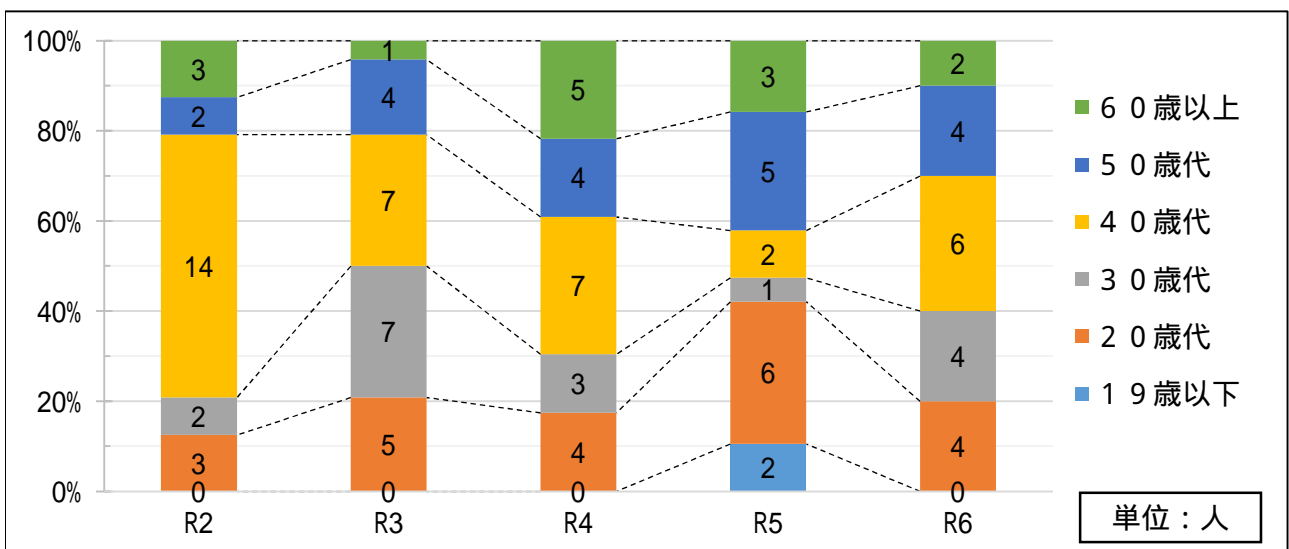
グラフ14 過去10年間の建設業における死亡者数及び死傷者数



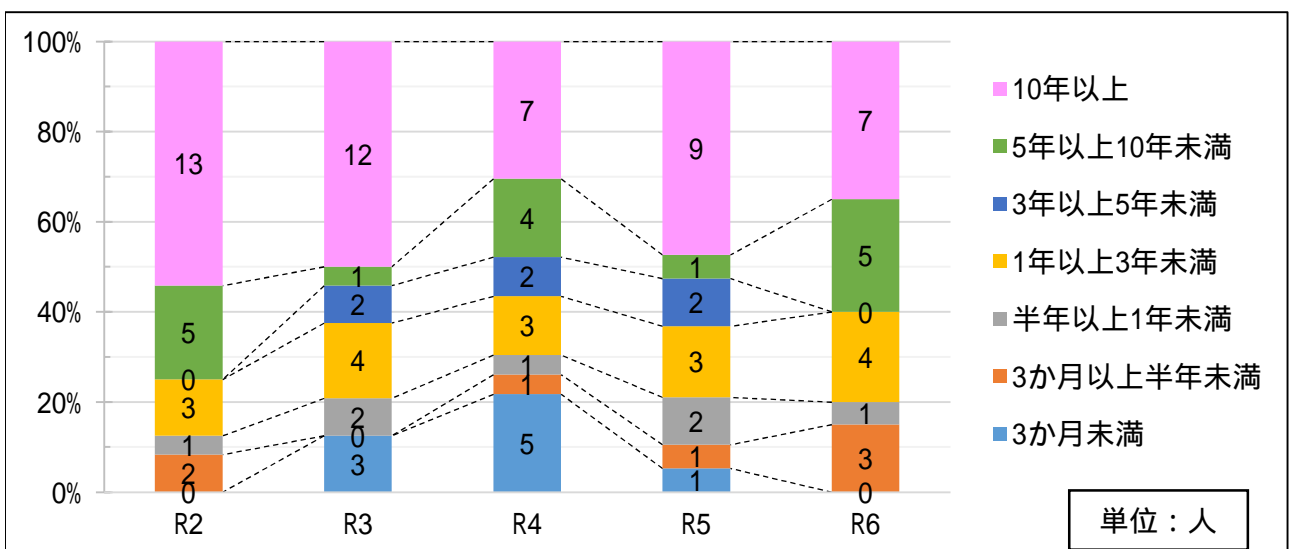
グラフ15 過去5年間の建設業における事故の型別 死傷者数



グラフ16 過去5年間の建設業における規模別 死傷者数の割合



グラフ17 過去5年間の建設業における年齢別 死傷者数の割合



グラフ18 過去5年間の建設業における経験年数別 死傷者数の割合

## 運輸貨物業の労働災害発生状況

- ・令和6年の死亡者数は0人。過去10年間の死亡者数は4人。
- ・令和6年の死傷者数は前年から10人増加し、31人となった。
- ・事故の型別では、「動作の反動・無理な動作」が10人で最も多く、次いで「転倒」が5人となった。
- ・事業場の規模別では、10人以上30人未満が11人で最も多かった。
- ・年齢別では、30歳代の労働者が9人で最も多かった。

表15 運輸貨物業における労働災害死傷者数の推移

グラフ19

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	前年比較
死亡者数	0	0	0	1	0	1
死傷者数（死亡者除く）	26	31	24	20	31	11
合計	26	31	24	21	31	10

表16 事故の型別死傷者数

グラフ20

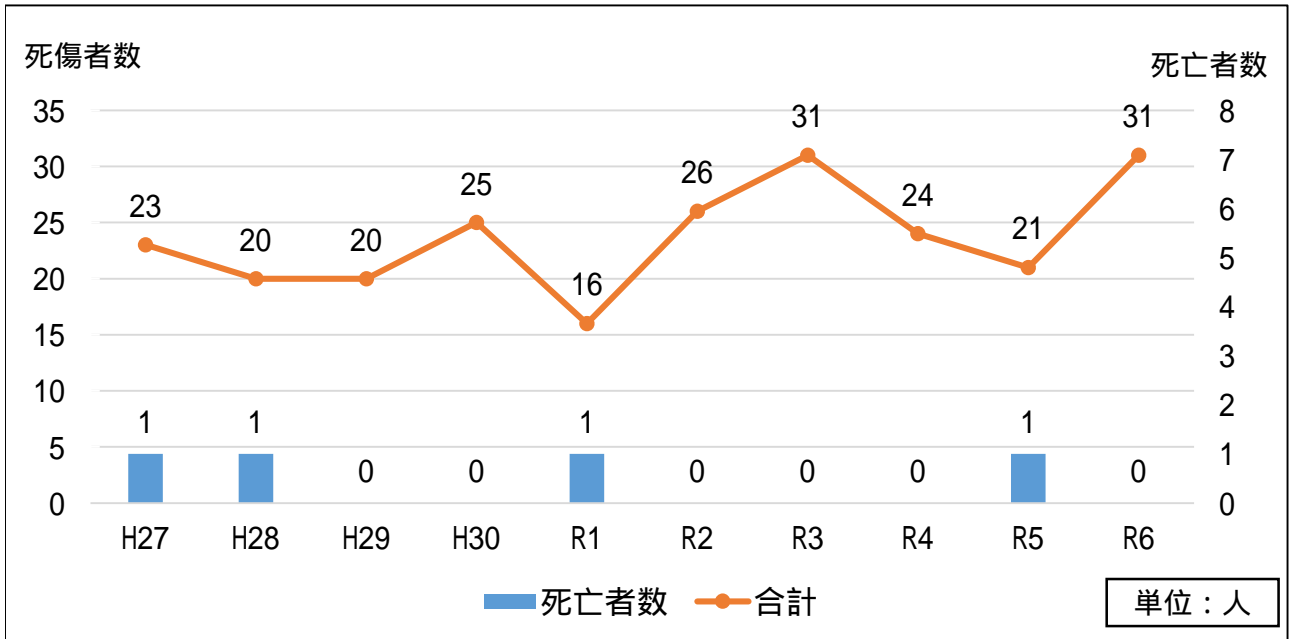
	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	前年比較
墜落・転落	6	4	7	4	4	0
転倒	4	6	7	5	5	0
激突	1	3	2	2	3	1
飛来・落下	0	0	3	1	0	1
崩壊・倒壊	1	3	2	0	0	0
激突され	2	1	0	0	3	3
はさまれ・巻き込まれ	4	3	0	2	4	2
切れ・こすれ	0	0	0	2	0	2
感電	0	0	0	0	0	0
交通事故	3	2	0	(1)	1	0
動作の反動・無理な動作	4	8	2	4	10	6
その他（上記以外）	1	1	1	0	1	1

（注）1.本統計は、「労働者死傷病報告」により、休業4日以上 の災害を集計したものである（新型コロナウイルス感染症のり患による労働災害を除く）。

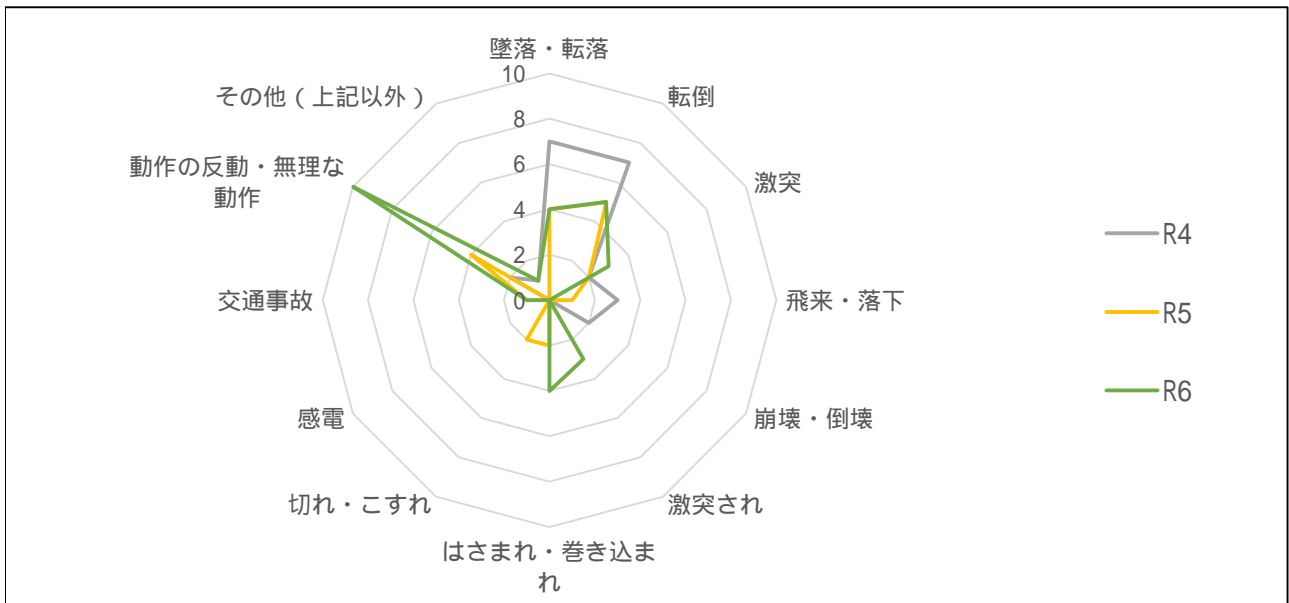
2.（）書きは死亡者数で、死傷者数の内数である。

3.単位：人

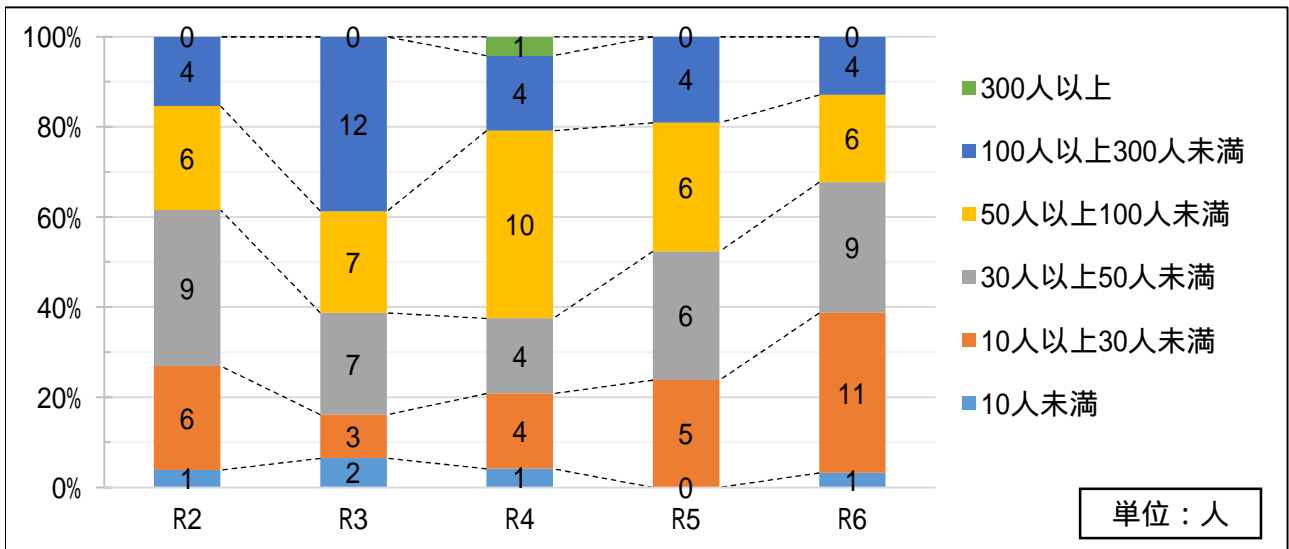
## 運輸貨物業の労働災害発生状況



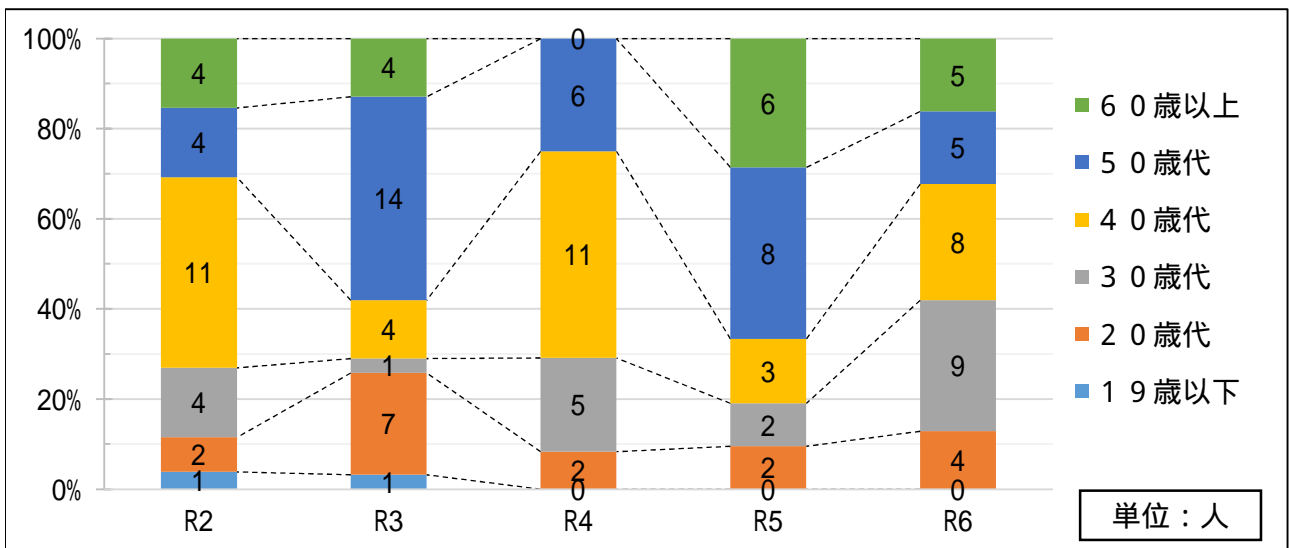
グラフ19 過去10年間の運輸貨物業における死亡者数及び死傷者数



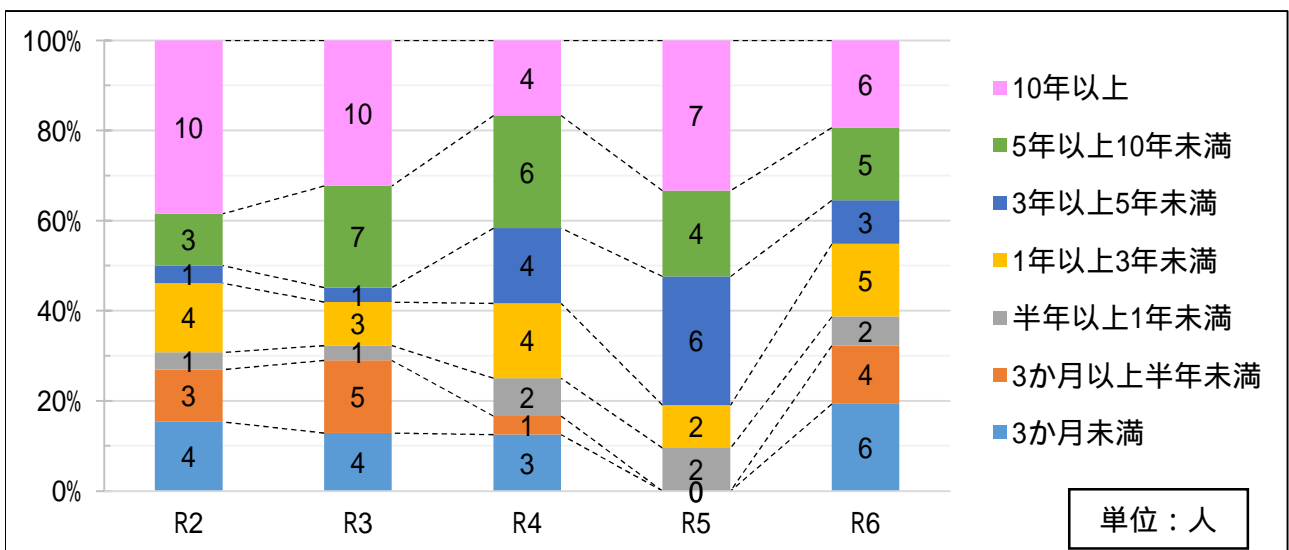
グラフ20 過去5年間の運輸貨物業における事故の型別 死傷者数



グラフ21 過去5年間の運輸貨物業における規模別 死傷者数の割合



グラフ22 過去5年間の運輸貨物業における年齢別 死傷者数の割合



グラフ23 過去5年間の運輸貨物業における経験年数別 死傷者数の割合



ひと、くらし、みらいのために

厚生労働省

Ministry of Health, Labour and Welfare

## 各種情報リンク集



### 上田労働基準監督署からのお知らせ

上田労働基準監督署管内の労働災害発生状況や、リーフレット等を掲載しております。本資料もダウンロードできます。



### 職場のあんぜんサイト

労働災害統計、労働災害事例、各種教材・ツールなど

### 高年齢労働者の安全衛生対策について

高年齢労働者の安全と健康確保のためのガイドラインやエイジフレンドリー補助金、関係するリーフレットなど



### こころの耳

働く人のメンタルヘルス・ポータルサイト



### 石綿総合情報ポータルサイト

改正石綿則のポイント、石綿関連資料・データ集など

## 長野労働局 安全衛生関係

長野県内の安全衛生講習等予定表や、登録教習機関・登録検査業者等の名簿、各種リーフレットなど

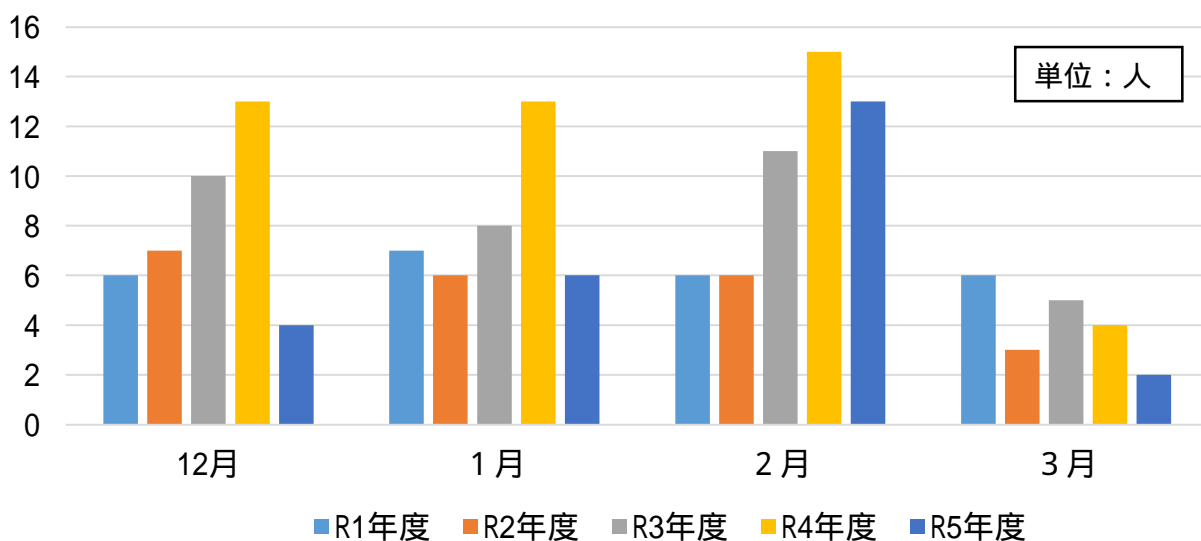


## 安全衛生関係主要様式

労働安全衛生法に関する様々な様式がダウンロード可能です

## 冬季の転倒災害について

過去5年間、当署管内の全業種の転倒災害を月別にみると、12月から2月にかけて発生が多い傾向にありました。積雪時や凍結時に転倒リスクが高まるため、冬季に入る前までに転倒災害対策の準備を図って、冬季には物理的対策を講じ転倒リスクを低減しましょう。



グラフ24 過去5年間の月別転倒災害発生状況



